

2022年3月9日

## 5歳から11歳の新型コロナワクチン接種に関する当法人の考え方

医療法人財団はるたか会 理事長 前田浩利

現在、国は5歳から11歳までの小児の新型コロナのワクチン接種を進める方針です。

その根拠となっているのは、ニューイングランドジャーナルオブメディスンという権威ある医学雑誌の論文で、その論文によると、ファイザー製の新型コロナワクチンを5歳から11歳の小児に接種すると90%の感染防御効果があり、副反応は約10%に見られるものの、それは軽度で12歳から15歳への接種に見られるものと同等というものです。

デルタ株までの新型コロナウイルスは、小児への感染が非常に少なく、オミクロン株になって感染者は増えていますが、重症化する例はまれです。

オミクロン株は、全年齢での死亡率がインフルエンザの約1/5と言われていますが、実際、我々が診療した経験でも、小児は、たとえ感染してもインフルエンザよりはるかに症状は軽いと感じています。ですので、新型コロナワクチンの効果が高く、副反応も少なくても、新型コロナ感染が、子どもには普通の風邪なみに軽症なので、子どもたちにワクチンを接種することの本人へのメリットが本当にあるのかどうかは、現時点では明確に言えません。ただ、ワクチンを接種すると、新型コロナにかかりにくくなることは間違いないので、周囲の方に感染させないという社会的メリットはあると考えられます。

以上をまとめると

- ① 5-11歳の小児に対する新型コロナワクチンは、高い効果があり、副作用も少ない。
- ② 現在、流行中のオミクロン株は子どもにとっていわゆる風邪程度の感染症
- ③ ワクチンを接種すると感染を広げないという社会的意義がある

これらの点から当法人では、5歳から11歳までの方に新型コロナのワクチンを打つかどうかは、ご本人とご家族に決めていただく、ご本人とご家族の意思によるものと考えます。

また、新型コロナウイルスの医学的知見は2-3か月ごとに新しくなっています。ですので、今は接種せず2-3か月待って、更に新たな知見、エビデンスが出るのを待つということでも良いかと思えます。

現在、当法人では、当法人の5歳から11歳の患者さんにワクチンを接種できるよう準備を進めています。準備が整い次第、皆さまにお知らせし、接種を進めていきます。

しかし、ワクチンは1本のバイアルから10人分を注射器に吸い、それを12時間以内に使用しなければならないという制限があるため、定期往診とは別にワクチン接種のチームを作りワクチン接種に集中して回るため、時間や曜日の指定は難しいこと、また、5歳から11歳の小児のワクチンと、**従来の12歳以上のワクチンは同じファイザー社でも濃度が異なる**ので、ご家族の中の12歳以上の方と一緒に接種することはできないのでご理解くださいますようお願いいたします。また、当院に来院していただいている接種は若干時間や曜日調整可能ですので、ご相談ください。